

特集 「編集委員今年の抱負 2013」

人類に AI を !!

阿部 明典 千葉大学



昨年の4月から長年勤めた某企業研究所を退職して大学に奉職した。これまでも非常勤などで学生を教えたことはあるが、1年を通しては初めてである。ちなみに、言っていなかったが、私は、人工知能を専門としていると少なくとも自分では思っているが、所属は、文学部である。友人からはいろいろな面でうらやましがられたが…。しかしながら、文学といっても、やや理系も融合されていると理解されている文学部行動科学科である。

本題に入る前に、本誌の報告 (Vol. 27, No. 6, pp. 676-679 (2012)) でも書いたが、昨年の全国大会では大会の前に一般市民にも向けた **workshop** を行ってみた。人工知能を広められたら、という考えからである。月曜の午後という時間帯もあってか、期待した年齢層の方は来場しなかった。しかしながら、おかあさんに連れられた子供がかなりの数来場した。そこには、メディアを前面に出した AI のアプリケーションともいえるものを展示していた。インターフェースは子供にもわかりやすく、おそらく彼らはゲームセンターの乗りで遊んでいたと思うのであるが、いじっていたシステムの裏には AI が走っていた。一般の人には AI というとなんか難しいという先入観があるようである。何を研究していますか? と聞かれて、「人工知能です」と言うと、たいていは「難しいことをなさっているのですね」で会話が途切れてしまう。というわけで、「コンピュータです」と答える。これなら、少しは会話が続く。でも、これではちょっと悲しい…先ほどの子供達は AI と知らずに楽しんでいたのであるが、これで AI を広められるといいなと感じていた。

さて、話題をぐぐつと戻す。新人といえども、ちゃんと授業の割当てはある。私には人工知能を教えるという授業が二つある。一つは大学院1年向けの小さな授業である。もう一つは MAX で 20 人くらい参加する学部2~4年向けの授業である。最初の授業でわかったのであ

るが、彼らは異常に数式にアレルギーを示す。AUBあたりは、何とか、ベン図で教えることはできた。スコレム化はこんなもんだ…で、その先はわからなくてもいいから、意味だけ知って欲しい。論理のシーケンシャル計算は無理だろうな…興味があれば、資料を渡してあるので、これがどうなるかを理解してほしいといった感じである。一回、どうしても話したくて、フレーム問題、サーカムスクリプション、イェールシューティング問題といった一連の話をした。このときは、フレーム問題はデネットの本に出てくるロボットの話で何とかできた。問題は、工学部の学生でも尻込みするサーカムスクリプションである。式は見せたが、これはこういう意味であるという概念的な説明で終始した。どれくらい理解してもらえたのかは不明であるが…AIの苦悩の道(笑)は理解してもらえたと思う。ちなみに、資料は私が博士課程1年のときに、大学院輪講で使ったもの。工学部の大学院向けであるので、これだけでも文学部の学部生には敷居が高かったかもしれない。

というわけで、最近では、まず、アプリケーションの話をしてそれから、その根底にある AI 技術を数式を使わずに説明している。オークション、人工市場、コンピュータミュージックなどのアプリケーションに関しては非常に興味を示すし、理解はしているようなので。しかしながら、もしかしたら、次年度はやり方を変えないといけないかもしれない。個人的には、AIに興味があるが、難しいという先入観をもっている人からその先入観を除き、AIはおもしろい、自分でもできる。では、論理式でも勉強してみようかと思わせられれば成功だと思っている。少なくとも、おもしろそうだというあたりまではきているのではないかと個人的には思っている。ということで、今年の目標: 文系の学生に論理式を!! ひいては、人類に AI を!! である。